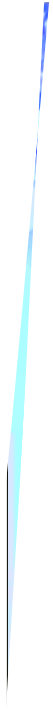




5



株式会社 中国放送 代表取締役社長  
**安東 善博**さん（1965年 教育学部卒業）

### 友だちの多さ、多彩さがモノを言ひ、マスコミを目指すなら、人間関係を広げることです。



「教師を目指すなら広大教育学部」  
 迷いはまったくなかった。

広大に入学したのは昭和36年ですから、もう半世紀近くも経ちますね。  
 私、もともとは、教員になりたいくて、広大を目指したんです。東の東京教育大（現筑波大）、西の広大教育学部と言われたくらい、教員の育成には実績と伝統がありましたからね。名だたる先生方もおられたし。  
 入試は、今と違って6教科9科目。そりゃ、一生懸命勉強した。そのころは、合格発表を見に来られない受験生のために、先輩たちがアルバイトで合否通知の電報を送ってくれるんですが、「サクサク」という電報を受け取ったときは、もう嬉しくて嬉しくて、家を飛び出しましたよ。  
 当時は、今みたいに「大学行くのが当たり前」という時代じゃなかった。高校は下関市の進学校でしたが、それでも国立の二期校に進学したのはクラスでも数人。姉弟4人の中で大学に進んだのは私1人です。そんな時代ですから、合格の喜びも、今の皆さんの何倍も大きかったと思いますよ。

人に会っている話聞ける。

そんな思いで広大に入ったのに、結局、教師にはなれなかった。在学中に学生運動をしたから、だといつもいたが、成績の問題かもしれないが、（笑）まあ、なんとかなる。中国新聞社に入社できて、記者としての人生が始まった。  
 新聞記者の仕事は面白かった。教師を目指していたことなんか「口ツツ」と忘れて、とんとん仕事に夢中になっていきました。  
 何が面白かったか——うーん、いろいろ人の話を聞けること。それが一番かな。  
 記者という仕事は、人の話を聞くところから始まるでしょう。取材を通して、本心にさまざまな人の話を聞くことができました。記者でなければ聞けないような話を聞くこともできた。聞くことは仕事ですが、同時に、それは自分自身の栄養にもなる。もの見方、考え方も変わってきて、それが仕事に反映されていく。  
 それ以外にも、いろいろないい出会いがありました。一杯飲みながら先輩に教えてもらったこと、

同僚と議論しあつたこと、すべてが栄養源となつて、自分という人間を形成してきたのだと思います。

記者と経営者、方向は違っても新しい世界は刺激的です。

もちろん、楽しいことばかりじゃない。張り込みで地べたに座ることも慣れたし（笑）、失敗もした。でも、仕事がイヤだと思つたことはない。このまま、一生、記者として書いていきたいと思つていました。

しかし、途中で新聞からテレビへと足場を移すことになり、おまけに経営をあずかることになってしまった。でもね、これがまた、面白いんですよ。会う人も話題も、記者時代とは違つてきて、新しい世界が広がった。素晴らしいチャンスだと思つています。

もちろん、記者として一生書き続けてきた先輩や同僚は、「カクコイイ」ですよ。本を出版したり、私の知らない高みの世界を知つていったはず。ただ、それは違つ方向でも、可能性は広がっているという事です。

人に会おう。話を聞こう。心を開いて、人間関係を築こう。

皆さん、友だちいますか。グチをこぼしたり甘えたりできる友だちや先輩です。きつと、少ないですよ。  
 アタマで人を分類していませんが、自分の方から、心を開いていっていますか。



若い人たち、一般的に、人間関係を築くのがうただと思つてますね。全体に、おとなしくてスマート。人と話すのも得意じゃないように見えます。

若い社員に「先輩と飲みに行かないのか」と聞いたら、「誘つてくれないと言つたんですよ。お誘ひくださいよ」と、甘えればいいのに。先輩が遠慮しているのが、若い社員たちが遠慮しているのか。

マスコミを志望する学生も多いと思いますが、大学時代にいろいろな人と触れて、目、耳を開いて、人の話をいっぱい聞くといい。ただし、自分勝手に解釈しないこと。独断はいけない。自分の考えを発展させるためには、やはり、キャリアが必要ですよ。

インタビューも大事だけど、もっと遊んでもいいんじゃないですか。いろいろな人の話をたくさん聞いて、自分を肥やしていきましょう。うちでも学生アルバイトはしっかり勉強もしている。（笑）チャンスはいろいろありますよ。

### 安東社長の広大生時代

下関西校から広島大学へ。高校社会科の教師を目指す。教育学部だが、ゼミは当時の政経学部・中野清一先生の社会学。中野先生からは大きな影響を受けた。

テニス部に所属し、中四国大会でベスト8になったことも。学生会の役員としても活動。体育会設立を巡つて学生運動の活動家と激論を交わしたことも、今では「よき思い出」。

卒業後、(株)中国新聞社に入社。報道畑を歩いた後、1999年、取締役として中国放送へ。2007年、代表取締役社長に就任。



教育学部時代の安東社長。学生証に貼っていたのはこの写真だった。

（株）中国放送プロフィール  
 昭和27（1952）年設立。広島で最も歴史のある民間放送局。ラジオとテレビ、2つのチャンネルを持ち、どちらも「RCC」の略称で親しまれている。  
 2002年にはISO14001（環境マネジメントシステム）を取得。社内での環境負荷軽減活動を徹底させるとともに、地域で環境保全のために活動している人々を支援する。RCCエコロジーファンドを設立。こうした企業活動が評価され、民間放送連盟から、放送と公共性の番組部門で優秀賞を授与された。



広島大学の後輩たちが社長就任を祝ってパーティーを開いてくれた。その時贈られたイラストは社長室に飾つてある。



### インタビューの後で



森教育（学部） 学生に対しても、ちゃんと目を見て話を聞いてくださる姿勢に驚きました。「さまざまな人の話を聞いて給料がもらえる、素晴らしい職業！」として、記者への夢が膨らみました。  
 小田（教育学部） 「大学生のうちには世間で遊んで勉強しなさい」と言われたのが印象的でした。勉強はもちろんですが、仲間との付き合いや、大学生の間にはできないこともやっておこうと思えます。  
 白石（教育学部） 安東社長はとてもフレンドリーで、最初の緊張があつたという間に解けてしまいました。こんな素敵な大先輩にインタビューができる機会が持てて、とても良かったです。  
 小島（法学部） 「友だちでも先輩でもいい、甘えられる人を持つ」と安東社長はおっしゃいました。私も、自分から心を開いて積極的に人と関わっていくこと、決めました。  
 見世（総合科学部） 折しも就職活動中。お話をうかがって、「働く」ということは、「自分の生き方を自分自身で決めることだ」ということに気づきました。自分にとって生き方を考えるいいチャンスでした。

# 広島大学発 ビジネス新風

広島大学の研究をベースにスタートしたベンチャービジネスが成長中

## 「ヒトの肝臓を持つマウス」で 創薬・再生医療研究をサポート



株式会社フェニックスバイオ 〒739-0046 広島県東広島市鏡山 3丁目 4-1  
TEL082-431-0016

### オンリーワン技術で世界市場へ

ヒト肝臓を持つPXBマウス生産と、それを使った医薬品開発のための試験受託が、フェニックスバイオのコア技術。B型・C型肝炎の治療薬開発や肝臓再生研究への利用を想定して、広島大学理学研究科の吉里勝利名誉教授の研究をベースにスタートしました。

蔵本健二・代表取締役社長によれば、「70%以上ヒト化した肝臓を持つマウスをつくれるのは、世界でも当社だけ。まさに「オンリーワン技術」です」

その言葉どおり、2004年日経優秀製品・サービス賞、第4回日本バイオベンチャー大賞などを受賞。2004年にPXBマウスを使った受託研究事業を開始して以来、順調に業績を伸ばし、昨年夏には本社工場を新設。日本国内だけでなく、海外市場での需要も伸びています。ベンチャーファンドなどからの資金調達も順調で、当初1000万円の資本金が、今や約10億円。IPO(株式上場)を足場にアメリカへの拠点拡大を目指しています。

### 大学発の技術を咲かせる

蔵本社長自身、京都大学農学部で繁殖学を修めた人。その後、長年にわたって、商社で食料関係のビジネスの開発・育成に携わってきたとか。

「大学発の事業には2つの局面がある。まず、科学的評価を受ける局面。これは大学の中でできる。しかし、これを事業化する

代表取締役社長 蔵本 健二氏



るとなるとまったく異なる発想が必要です。大量に均質の製品を生産する技術、元々の技術のコンセプトを理解させる技術……。しかも、ベンチャーにはスピードが必須。今使えるものを、ニーズに応えられるだけ提供できなければ意味がない——つまり、大学の知識や技術を事業化するには、事業化のための専門技術が不可欠ということ。蔵本社長のベンチャービジネス論は、この夏、広島大学で受講できる予定です。



PXBマウス

ヒトの肝臓を移植したキメラマウス。従来、人間とチンパンジーにしか感染しないといわれてきたB型・C型肝炎ウイルスの感染・複製メカニズムの研究や、治療薬開発に寄与する。

# 地元企業で 縦・横につながっている

## 広楓会

政経学部・法学部・経済学部、大学院法学研究科・経済学研究科・社会科学部研究科などの卒業生で組織される。

### 法・経・政経卒同窓会

会員数:18,937名(平成20年1月25日現在)

会長 加藤 公敏



# 同窓会 訪問 第1回

## 月に一度の

## コミュニケーション

広楓会は、広島大学の中核コミュニティが密な同窓会のひとつ。というのも、地元広島の大企業や団体に就職した卒業生が多く、社内や経済界でのつながりが普段からも強いから。年に一度の総会や懇親会では、縦・横のつながりが育まれています。

特に、月に一度、第三木曜日に開かれる「三木会(さんもくかい)」は会員のつながりをさらに強くするものです。広楓会会員なら誰でも気軽に参加でき、情報交換や、日常の雑談を交わしています。第一期卒業生から卒業したの若者、在学中の留学生まで幅広く参加しているのが、若手には企業役員の話が、年長者にはフレッシュな話題がそれぞれ刺激になっているんだとか。広島から離れた卒業生も、転勤やUターンなどで戻ってきたら、三木会に顔を出す人も少なくありません。地元企業の社長や重役になった卒業生も多いので、自然と人脈も広がっていきます。

## 肩書きのない 人脈づくりができる

「広報誌に載る前の情報交換もあるし、業界の動きをいち早く知ることができる」と、できる限り広楓会の集まりには出席しているという会員もいます。また一方で、「仕事に限らず、自分の領域を広げる、深めることができる。普段話す機会のない年の差があっても年齢を乗り越えて話ができることもあります」と、広楓会幹事の塚本直美さんは言います。

会社名や肩書きのとれた関係を築くことは、社会に出るとなかなかチャンスがありません。しかし、ここには同じ広楓会のメンバーというだけで、みんなが「何かあったら手を差し伸べてやろう」という雰囲気があります。そして、時にはそれがビジネスチャンスにつながることもあるそうです。これまで広楓会を支えてきた多くの先輩方は、これからの広楓会を作っていく後輩たちを弟・妹のように温かく迎えてくれるでしょう。

三木会は、毎月第三木曜日18時30分からANAクラウンプラザホテル広島 5階「桃李」で開かれています。

広楓会への入会申し込み・連絡先変更は事務局までご連絡ください。

〒739-8525 東広島市鏡山1丁目2番1号

広島大学法学部・経済学部 広島大学広楓会事務局 担当：上中達男

TEL：082-422-7111 内線5550 E-mail：kofukai@law.hiroshima-u.ac.jp

# 同窓会 ニュース NEWS

## 尚志会百周年記念式典・記念講演会が開催されました

広島大学の前身である広島高等師範学校の同窓会「尚志会」が明治41年の創立から百年を迎えました。昭和7年からは広島文理科大学の卒業生も加わり、現在は、広島大学文学部・教育学部・理学部卒業生らを中心に活動しています。

平成19年12月1日、百周年を記念して、広島市中区の県民文化センターで、式典と講演会が行われました。約200人が参加した式典では、100年のあゆみがスライドで上映され、参加者たちは、教育者を育て続けた100年間の積み重ねをあらためて感じていました。

これまで、西日本の学校教育現場に多数の教育者を輩出してきた尚志会の活動は、100年という歴史の上に、今後ますます期待されていくことでしょう。

## 現役時代の知識を市民に伝授 広島大学マスターズ

広島大学の教職員OBらで組織された「広島大学マスターズ」が、東広島市教育委員会との共催で、市民講座を開講しました。4回の連続講座は初めてでしたが、「熟年世代の健康と食べ物」「広島魚文化」など、市民の関心あるテーマで参加者からも「受講してよかった」との声が多く寄せられました。

これまでも、小学校などで出前授業を行い、現役時代に培った知識を、地域住民らに惜しみなく伝授しています。平成18年12月の発足から、東広島市の生涯学習やまちづくりに参加したり、広島大学と地域を結ぶ役割を担ったりと、精力的に活動。今後も豊富な知識と経験を生かして、活躍の場を広げていきます。

## 「卒業生名簿整理へのご協力をお願いします」

広島大学校友会では、校友間の交流事業の一環として卒業生名簿整理を行っています。卒業後の住所や名前などの情報について、専用フォーム「卒業生情報登録シート」またはメール等でご一報ください。卒業生情報登録シートウェブ版

URL: <http://phoenix.hirodai.jp/koyukai/>

E-mail: [sec@phoenix.hirodai.jp](mailto:sec@phoenix.hirodai.jp)

(お名前(旧姓も)、ご住所、電話番号、卒業年、卒業学部、Eメールアドレス等)

ご提出いただいた個人情報は、校友会及び同窓会の活動(校友間の交流支援、学生への就職支援)のみに使用させていただきます。個人情報保護法を遵守して厳正に管理いたします。



広大生も知らない「広島大学の特色」を、校友会員に知っていただくコーナー。

「ハイプロスペクツ(HIPROSPECTS)」とは、「到達目標型教育プログラム」という広島大学独自の教育システムです。卒業までに身につけておくべき知識や能力を到達目標として明確に示して、これまでの授業科目の成績評価だけでなく、到達目標に対する到達度を測りながら教育していくもので、平成18年度から導入されました。何が、どのくらい、身についたのかを実感しながら学習していくことができます。

また、「ハイプロスペクツ」は、専門領域にとらわれず、学部学科の枠を超えて興味のある分野を学ぶことができることも大きな特徴です。これからの「副専攻プログラム」は、成績などの一定の基準を満たした3年次以上の希望者を対象として、主専攻プログラムに匹敵するほどの内容を習得するためのプログラムです。例えば、理工系の学部に入學しても、自分の主専攻プログラムを学びながら文学や経済などの専門分野についても学ぶことができます。



「HIPROSPECTS」は、広島大学の登録商標です。「ハイプロスペクツ」のコンセプトとして、「みえる・つながる・つかえる」を掲げています。詳しくは専用のウェブサイトをご覧ください。URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/prog/index.html>

# 「ハイプロスペクツ」って、何

習 又は、資格の取得を目的としたプログラムです。前者を目的とするものの例としては、国際協力に関するものや高度な英語能力を養成するものなどがあります。後者を目的とするものの例としては、学芸員や図書館司書教諭等の資格を得るためのものがあります。

